

「そのとき、ピラトはイエスに、「おまえがユダヤじんのおうなのか」といった。イエスはおこたえになった。「あなたはじぶんのかんがえで、そういうのですか。それとも、ほかのものがわたしについて、あなたにそういったのですか。」ピラトはいいかえした「わたしはユダヤじんなのか、おまえのどうほうやさいしちょうたちが、おまえをわたしにわたしたのだ。いったいなにをしたのか。」イエスはおこたえになった。「わたしのくには、このよには、ぞくしていない。もし、わたしのくにがこのよにぞくしていれば、わたしがユダヤじんにひきわたされないように、ぶかがたたかったことだろう。しかし、じっさい、わたしのくにはこのよにはぞくしていない。」そこでピラトが「それでは、やはりおうなのか」というと、イエスはおこたえになった。「わたしがおうだとは、あなたが知っていることです。わたしはしんりについてあかしをするためにうまれ、そのためにこのよにきた。しんりにぞくするひとはみな、わたしのこえをきく。」

カトリックきょうかいのカレンダーはおわりのしゅうをむかえます。らいしゅうはもう「たいこうせつがはじまります。ですからきょうかいでは、しんねんにあたります。この一ねんをしっかりとかんしゃして、たいせつになるじかんをふやしていけるように、あたらしい一ねんにむかって、すくいぬしのたんじょうにむかってじゅんびしていきましょう。きょうはおうであるキリストのしゅくじつですが、わたしたちがもっているイメージとイエスさまのおうであるかんがえはまったくちがうのですね。わたしたちは、「おう」ときいたらすばらしいきゅうでんにすんでいて、きれいなふくをきて、すきなものたくさんたべて、なんでももっているかただとおもっているのでしょうか。イエスさまには、それぞれのものをもっていないし、またのぞんでおりませんので、わたしたちのかんがえとちがっていますね。きょうのふくいんでは、イエスさまはたいほされ、ローマのそうとく（ちじ）ぴらとにしつもんされます。もうすぐじゅうじかにむかわれるばめんです。じゅうじかによって、イエスさまはもっとたいへんくるしんで、いのちをささげられたことはみんなよくしっていますね。イエスさまがきょう {王} といわれるのは、このじゅうじかによってわたしたちひとりひとりのつみやよさをぜんぶあいであつんでくださったからです。じゅうじかは「あいのしるし」です。わたしたちがおもっているおうさまはずいぶんちがっていますね。イエスさまは、わたしたちのこころのおうだとわたしはおもっています。ひとりひとりをこころからあいし、じぶんのできをゆるすことによって、へいわをもたらすこのせかいにかみさまのくにをおつくりになります。

わたしたちは、イエスさまをほんとうのおうとしてみとめて、かみさまのくにのひとりとして、いっしょにあゆみたいものですね。

イエスさまにまいにち「ありがとう」といいたまおうね、そしてこれからは、できなかったことにちょうせんしてみましようね。

ぬりえ

